

令和3年度
10月号

KSSVCだより

回覧

Kobayashi School Support Volunteer Center

小林市教育委員会 社会教育課 KSSVC 事務局 (Tel.22-7912)

市内各地域には、特色ある郷土芸能が、それぞれの保存会の皆さんのご尽力で大切に伝承されています。

保存会の皆さんの願いは、それらの郷土芸能を次の世代にも引き継ぐことですが、そんな時に力を発揮するのが、地域と学校とが協働しながら行う「地域学校協働活動」です。

今月号では、保存会の皆さんとともに郷土の伝統芸能を学習し、繋いでいる子どもたちの活躍もいくつか紹介しています。

※ 市内各地域の郷土芸能は、小林市のホームページで紹介されていますので、ぜひご覧ください。

小林市の郷土芸能 で検索してください。

棒 踊 り の 練 習

野尻小 5・6年生

運動会での披露を目指し、東麓新地馬場棒踊り保存会の方々から指導を受けました。

この日は、踊りの入場である「では」に取り組みましたが、細かな動きや間隔、掛け声などについての丁寧なご指導により、軽快な動きときれいな隊列での入場ができるようになりました。

棒踊りを地域の伝統として継承していきたいという保存会の皆さんと子どもたちの思いが、練習中の真剣な表情や姿に表れていました。



「では」の動きのポイントを丁寧に説明していただきました



城攻め踊りの練習

紙屋小 4・5・6年生

毎年、小中合同運動会で、戦国時代の伊東と島津の争いを唄や踊りに表現した城攻め踊りを披露しています。

この日は、中学校の運動場で、保存会の方々の指導を受けながら、入場から踊り、退場までを通して練習しました。

練習を繰り返すうちに、太鼓や鉦に合わせた動きがスムーズになるとともに、踊りにふさわしい凛々しい表情になってきました。



兵児踊りの練習

小林小 4年生

兵児踊りは、島津氏が薩摩武士の士気を鼓舞するために踊らせたのが起源と伝えられています。

毎年、4年生が真方一区兵児踊り保存会の皆さんから歴史や踊りを指導していただき、その成果を運動会で披露しています。

この日の練習では、動きを大きくすること、腰を落とすことなどのアドバイスを受け、踊りにさらに磨きをかけ、勇壮さを表現できるようになりました。



保存会の皆さん



心強い味方「地域の先生」

東方小 5年生

家庭科の裁縫の単元「ひと針に心をこめて」の学習を進めるにあたって、地域にお住いの岡原さんと武田さんのお二人に支援していただきました。

針に糸を通した後、玉結び、玉どめ、なみぬい、本返しぬいなど、お二人に優しく教えていただきながら進めていきました。日ごろ、手縫いをする経験がほとんどない子どもたちにとって、大変心強い「地域の先生」でした。



岡原さん(左)と 武田さん



一人一人に、優しく丁寧に対応していただきました

手話で表現してみよう

西小林中 3年生

こすもす科の「手話で表現してみよう」の学習です。講師は、手話通訳者派遣協会会長の徳永さん、手話サークル「木の実会」の真方さんのお二人。

聞こえない人の生活やコミュニケーションの種類などを学習した後、実際に手話を使った簡単な自己紹介に挑戦しました。

生徒たちの真剣で積極的な取組の結果、短い時間にもかかわらず、全員が手話での表現の仕方を理解することができました。



徳永さん

真方さん



全員が手話での自己紹介ができるようになりました

陶芸教室 ～ふるさとを知る～

紙屋中 1年生

総合的な学習の時間に、「ふるさとを知る」というテーマで陶芸に取り組みました。指導して下さったのは、地元で活躍されている園田陶苑の園田貞哉さんです。

粘土で作ったひもを積み上げながら器を作る「ひもづくり」という方法で、湯飲みなどの作品を作っていました。この後、素焼きや絵付けなどを経て、完成した作品は文化発表会で披露されます。



園田さん



作品を前に記念撮影

デジタル機器との付き合い方を学ぶ

野尻中

スマートフォン等のデジタル機器と正しくつき合うための学習です。乳幼児メディアアドバイザーの松田さんを講師に、図書室と各学級とをつないでのリモートで行われました。

内容は「メディアによる体や心への影響」「ネットトラブル」についてです。生徒たちは真剣に取り組みながら、今後のスマートフォンの使い方、メディアとの接し方について考えていきました。



松田さん



ワークシートでの振り返りや話し合いで考えを深めました



令和3年度
11月号

KSSVCだより

回覧

Kobayashi School Support Volunteer Center

小林市教育委員会 社会教育課 KSSVC 事務局 (TEL22-7912)

コロナ禍による延期を経て、7月3日から10月17日までの期間で開催された「国文祭・芸文際みやぎき2020」が、無事に終了しました。

市内、そして県内各地で催されたプログラムを楽しまれた方もいらっしゃるのではないのでしょうか。

今月の23・24日開催となった「小林市総合文化祭」でも、幅広い世代の作品が鑑賞できることを楽しみにしましょう。

学校では、子どもたちが様々な文化に触れたり、文化の担い手になったりする活動があります。今月号は、そのような活動を紹介します。

そばの種まき ～日本の食文化に触れる～

日本で「そば」の栽培が始まったのは、古くまでさかのぼれば縄文時代にたどり着くそうです。

古くから日本の「食文化」を支えてきたそばの栽培に取り組む活動を2例紹介します。



細野小 4年生

総合的な学習の時間で、そばの栽培を体験しています。この日は、細野地区営農組合とJAこばやしの皆さんの協力を得て、種まきを行いました。

袋に小分けされた種を受け取った後、分担しながら畑一面に丁寧にまいていきました。

10月初旬には花の観察会（スケッチ大会）を行いました。11月から12月にかけて、刈取りとそば打ちを予定しています。



永久津小6年生・永久津中1年生・永久津保育園

JAこばやしの協力を得て、地域の方々とともに種まきを行いました。

永久津保育園からは年長さんが参加をし、保・小・中で協力しながら手際よく行ったため、短時間で終わることができました。

また、畑の一画には、成長時に「コロナニマケルナ」の文字が浮き出るようにまき、コロナ収束の願いも込めました。11月から12月に行う予定の刈取りとそば打ちが楽しみです。



「コロナニマケルナ」の文字が浮き出るようにまきました

ものづくり体験教室

須木中 1・2年生



ものづくりの楽しさや大切さを伝え、人材育成につながるための体験教室です。

豊技能士(ものづくりマイスター)3名の方々のご指導で「ミニ畳づくり」に



挑戦しました。

細かな作業に苦勞する場面もありましたが、技能士の皆さんの優しく丁寧なご指導により、全員が素晴らしい作品を作り上げることができました。

また、作品づくりを通して、日本の「畳文化」にも触れることができました。



完成したミニ畳を持ち、畳技能士の皆さんと記念撮影

輪太鼓踊り ～伝統文化の継承～

東方小・中

朝鮮出兵の際、島津氏が、藩の軍勢の士気を鼓舞するために鐘や太鼓を打ち鳴らした様子を起源とする輪太鼓踊り。

東方小5・6年生と東方中全校生徒が東方輪太鼓踊り保存会の方々のご指導の下、その継承に取り組んでいます。

この日は運動会での披露に向けて、小中合同で練習を行い、踊る場所、細かな動きの確認などを行いました。伝統を引き継いでいきたい、という思いが、子どもたちの表情や動きに表れていました。



思いを込めて踊る、小学5・6年生(写真上)と中学生(写真下)

幸ヶ丘太鼓 ～新たな伝統文化～

幸ヶ丘小

地域の新たな伝統として根付いている「幸ヶ丘太鼓」。橋太鼓「響座」の今村さんのご指導で、5月から練習を続けています。

その成果を披露する運動会(こすも〜ピック2021)直前のこの日は、太鼓を打つ時の姿勢や打ち方、声の大きさなどの細かなアドバイスを受けました。

今村さんの厳しくも優しいご指導に子どもたちも元氣な返事ときびきびとした態度で応え、緊張感のある練習となりました。



今村さんの指導を受けながら練習に取り組む子どもたち



運動会当日は、地域に素晴らしい太鼓の響きを届けました

文化発表会で手話通訳を導入

小林中 3年生

文化発表会での研究発表の際に、手話通訳を一部導入しましたが、この日は、発表に合わせた手話表現について、専門家にアドバイスを受けました。

指導者は、手話通訳者派遣協会の徳永さん、手話サークル「木の实会」の皆さん、市派遣通訳者の福本さんの計7名です。

4クラスとも、班ごとに、発表資料作りと手話表現の練習に真剣に取り組んでいました。

こすもす科で学んだ手話を他の学習にも生かす素晴らしい取組です。



アドバイスを受けながら、発表に合わせての手話を練習



令和3年度
12月号

KSSVCだより

回覧

Kobayashi School Support Volunteer Center

小林市教育委員会 社会教育課 KSSVC 事務局 (Tel.22-7912)

月日は百代の過客にして 行きかふ年もまた旅人なり (松尾芭蕉「奥の細道」より)

今年も、月日が旅人のように過ぎ、残すところあと1か月となりました。(今年は、ほとんど旅はできませんでしたが…)

今年の1月から、新規感染者数の増減を繰り返してきた新型コロナの状況も、落ち着いてきました。(このまま…と、祈るばかりです)

学校でも、引き続き感染対策を行いながら、教育活動が元に戻りつつあります。

来年こそは新型コロナも収束し、子どもたちが心置きなく学習に、遊びに、部活動に取り組めるようになってほしいものです。

学校間で交流学習

西小林小・幸ヶ丘小 1・2年生

西小林中学校区の幸ヶ丘小1・2年生(3名)と、西小林小1・2年生(57名)が、教室でのゲームや運動場での鬼ごっこ、ドッジボールなどを通して、交流を深めました。

西小林小を訪れた幸ヶ丘小の子どもたちは、初めはやや緊張気味でしたが、温かい歓迎にすぐに打ち解け、日ごろから一緒に生活しているかのように活動を楽しみました。



じゃんけん大会(1年生:左)やボールわたし(2年生:右)で教室は大盛り上がりでした



グラウンドでのドッジボールも大きな歓声が響きました

社会科見学

須木小 3年生

社会科の学習で、須木の特産品を加工・販売する「すき特産」を訪問しました。案内してくださったのは、スタッフの平川さんです。

栗を大ききで選別する様子や、しょうが・柚子が加工されていく様子などを見学した後は、名物「栗くり焼き」のお土産もいただきました。

地元で活躍する企業の見学が、将来、自分たちも須木を盛り上げていきたいという思いにつながってほしいと思います。



集荷場では栗の選別作業を体験しました

岩戸神楽 ~伝統文化の継承~

三松中 2年生

毎年、文化発表会で披露する地域の伝統芸能「岩戸神楽」の練習です。舞や演奏等を指導してくださるのは岩戸神楽保存会の皆さん。

生徒たちは、神様、なぎなた、剣などの舞のグループと太鼓、笛のグループに分かれて、アドバイスを受けながら練習を重ねていきました。

大道具や小道具の作成にも丁寧に取り組み、全員で神楽を作り上げていく意気込みを感じました。



オンラインで消防署の働きを学習

南小 3年生

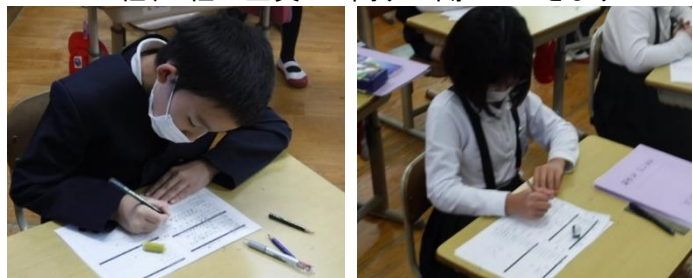
火災や事故などから私たちの生命・財産を守ってくれる消防署についての学習です。

この日は、消防署と教室をオンラインで結び「消防車は何分で現場に到着するの?」「119番はどこにつながるの?」など、疑問に思っていることを聞きましたが、子どもたちの多くの質問に、署員の方が一つ一つ丁寧に答えていただきました。

この後は、答えていただいた内容をまとめながら、さらに学習を深めていきました。



1組、2組の全員が1問ずつ聞いていきます



署員の方の回答は、質問用紙にメモしていきました

収穫を喜び、自然に感謝

永久津中 1・2年生 ～サツマイモの収穫

6月に植えたサツマイモ(紅はるか、安納芋)の苗が大きく成長し、収穫の日を迎えました。

支援してくださったのは、地域コーディネーターの神之菌さんと今別府さんです。

機械掘りで姿を現したイモを生徒たちがコンテナに詰めていきましたが、量も大きさも昨年以上だったようです。

掘ったイモは、文化発表会の参観者に配ったり、家庭科の調理実習で使ったりするそうです。



栗須小 全校児童 ～稲刈り

学校田で何十年も続く地域との協働活動です。

例年、営農組合を初め、7つの団体に協力いただくのですが、今年は、コロナ対策で代表の方のみの参加となりました。それでも保護者を含め、多くの皆さんが協力してくださいました。

1～6年生混成で16グループを作って取り組みましたが、下級生の安全を見守り、刈り方を教える上級生の姿は、大変頼もしく見えました。

収穫したもち米は、持久走大会後の餅つきに使われるそうです。



足踏み式脱穀機も体験

こんなお手伝い、助かります

市内の小・中学校を対象にアンケート調査を行ったところ、「地域の方々に、こんなお手伝いをさせていただくと助かります」という回答がいくつかありましたので、その内容を紹介します。

☆ 学校の環境整備

- …校庭の草取りや掃除、花壇づくりや花の世話など



☆ 施設などの消毒

- …新型コロナ対策として、机やイス、教室内などの消毒



☆ 家庭科の授業補助

- …裁縫(ミシンも含む)や調理実習の補助

☆ プリントの丸つけ補助や資料等の印刷補助

都合がつけばやってもいいかな、という軽い気持ちで結構です。KSSVC事務局に電話いただければ、学校に紹介いたします。

電話：22-7912 (社会教育課内)



令和3年度
1月号

KSSVCだより

回覧

Kobayashi School Support Volunteer Center

小林市教育委員会 社会教育課 KSSVC 事務局 (Tel.22-7912)

明けまして おめでとうございます

令和4年の干支は「壬寅(みずのえ・とら)」で、「冬が厳しいほど春の芽吹きは生命力に溢れ、華々しく生まれる」ことを表しているそうです。

昨年、新型コロナの影響でなかなか思うように活動できない厳しい状況でも、子どもたちの表情は、明るく、元気でした。

今年も、元気で生命力溢れる小林市の子どもたちの学ぶ姿をお届けしたいと思いますので、どうぞ、よろしくお祈りします。



ものづくり体験教室

野尻小 6年生

ものづくりの楽しさや魅力を知ることができ、行われました。

子どもたちは、3グループに分かれて「園芸装飾」「洋裁」「ロボットプログラミング」を体験。

指導は、それぞれの分野で「ものづくりマイスター」の称号をもつ技能士の皆さんです。

マイスターの皆さんの丁寧なご指導を受けながら作品づくりに挑戦した子どもたちには、ものづくりに対する興味が湧いてきたことと思います。



「ロボットプログラミング」

秋を感じに ～ のじりこびあ

三松小 1年生

季節を感じたり、公共の物を大切に扱うことを学習したりするために、生活科の授業で「のじりこびあ」に行き、遊具等を使って遊びました。

小雨が降ったりやんだりするあいにくの日でしたが、遊ぶ時間帯はちょうど曇り空で、子どもたちは元気いっぱい活動することができました。

広くて、自然にあふれ、遊具がたくさんある「のじりこびあ」は子どもたちにとって大変魅力的な場所でした。



左は「園芸装飾」、右は「洋裁(ソックスづくり)」の様子

収穫の喜び ～いもほり

紙屋小 1～3年生

6月に植えたさつまいもの苗(紅はるか)が大きく成長し、収穫の日を迎えました。支援していただいたのは、JAこばやし青年部野尻支部と保護者の皆さんです。

天気もよく、絶好のいもほり日和の中、全員で力を合わせながら、大きないもをたくさん収穫することができました。掘ったいもは、家庭に持ち帰るとともに、紙屋中にもおすそ分けされたそうです。



学校にはない遊具に、子どもたちは大興奮でした。



秋も見つけました。



手で話す言葉「手話」を学ぶ

細野中 3年生

小林市では、中学3年生のこすもす科で、手話を学習します。(小3、小5でも学びます)

この日は、小林手話サークル「木の实会」の4名の方を講師に、聴覚に障がいのある方々とのコミュニケーションの方法、手話での自己紹介の仕方などについて学習しました。

「木の实会」の皆さんの的確なご指導と、生徒たちの熱心な取組で、全員、手話と指文字による自己紹介ができるようになりました。



味覚の授業

小林小 5年生

子どもたちに、味覚を意識させ、食の楽しみを学ばせる授業です。

味の基本となる5味(「甘味」「酸味」「塩味」「苦味」「うま味」)について、Kokoya de kobayashi(ここやっど小林)の地井シェフから、体験を通して教えていただきました。

子どもたちは、それぞれの味やミックスした味を匂ったり、味わったりしながら、味の奥深さ、食の大切さを感じる事ができたようです。



甘味(砂糖)、酸味(酢)、塩味(塩)、苦味(チョコレート)、うま味(だし)を味わっていました。



鼻をつまむと味を感じませんでした。嗅覚も味わうための大切な感覚です。

「土木の日」出前講座

須木小 4~6年生

11月18日の「土木の日」前後に行われる、土木技術や土木事業などに親しむことを目的とした体験活動です。県内では、11の小学校で実施されています。

須木小では、建設業協会や造園組合など、5つの団体の皆さんの指導を受けながら、測量、コンクリート舗装、クレーン操作などを体験しました。

すべてが初めての体験でしたが、子どもたちは楽しく取り組み、「土木」の大切さや面白さを感じているようでした。



測量体験



コンクリート舗装体験



クレーン操作体験





令和3年度
2月号

KSSVCだより

回覧

Kobayashi School Support Volunteer Center

小林市教育委員会 社会教育課 KSSVC 事務局 (Tel.22-7912)

梅が香に 追ひもどさるる 寒さかな

松尾芭蕉

2月4日は立春ですが、立春後の寒さを「余寒」と言います。小林の平均気温は1月が最も低く、次いで2月ですから、春とは言っても、しばらくは余寒が続くそうです。

そのような中、中学3年生は、受験シーズンを迎えています。高校受験は、15年間で身に付けた力を発揮する場ですが、大切な力の一つに、健康を管理する力があります。

寒い日が続きますが、最高の状態で受験に臨み、未来への歩をさらに進めてほしいと願っています。



昔の道具を体験

細野小 3年生

社会科の授業で「石臼、背負いかご、七輪、みの、わらじ、炭火アイロン」などの昔の道具を実際に使う体験をしました。

使い方を教えてくださったのは、小林ガイドボランティアと社会教育課の皆さんです。

現代の道具に比べると、手間がかかったり、重かったりしましたが、子どもたちは、体験を楽しみながら、昔の人の工夫や知恵を学びました。



写真は、石臼(左上)、背負いかご(右上)、七輪(左下)、みの(右下)

小林近未来ハイスクール

中・高・社会人

『働く』ってなに？ 『生きる』ってなに？をテーマに、冬休み前の12月11日に、中央公民館で開催されました。

主催は市キャリア教育支援センターで、今回が4回目です。(昨年度は新型コロナ感染防止のために中止)

中学生、小林高校生、社会人が混合で4~5人のグループを作り“働くこと”や“生きること”について語り合いました。

学校の授業とは異なり、正解は一つではないことを知る機会です。メンバーの意見を尊重しながら考え、その考えをどう導きだしたかという過程を大切にしました。



中学生31名、小林高校生29名、社会人15名が参加



宮原市長あいさつ



各グループの進行役は社会人です



宮崎大学
遠藤宏美 准教授

最後に、宮崎大学の遠藤先生から「悩んだ時に、相談する仲間を多く持っていることが大事。『人』という資源を大事に使って、仲間と一緒に、楽しく悩みながら人生を送ってほしいと思います」と、アドバイスをいただきました。

ライフプラン講座

西小林中 3年生

「人生と未来について考えよう」というテーマで、お金の使い方や自分らしい生き方、まさかの時のための備えなどについて、考えていきました。

講師は、日本生命保険相互会社の村田さんと野村さんのお二人です。

ある家族に起こる出来事への対応を、グループワークを取り入れながら考えていく中で、生徒たちは、計画的に、そして支え合いながら生きることの大切さを学びました。



村田さん



野村さん



生徒たちは「貯めたお金の使い方」や「まさかの時に必要なこと」などを話し合いながら、人生や未来について考えました

避難訓練 ～火災から命を守るために

野尻中

火災発生時の避難の留意点や避難経路を知り、安全に行動できるようになるための訓練です。

「火災発生」の放送で迅速に体育館へ避難した後は、野尻分遣所職員の方の話、消火器の使い方の説明、火災時に発生する煙の怖さの体験、という流れで行われました。

「本番」はない方がよいのですが、生徒たちの真剣な取組により、不測の事態への対応力が身についたことと思います。



煙の体験は理科室に無害の煙を充満させて行いました

これまでの「たより」は [KSSVC](#) で検索を

みどりの少年団募金活動

栗須小 4年生

6月に結団式を行ったみどりの少年団が、「ローソン三ヶ野山店」「サンキュー小林店」「野尻庁舎」など5か所に分かれて募金活動を行いました。

「緑を増やす活動をしています」との元気のよい子どもたちのお願いに、通りかかった方々も笑顔で、快く募金をしてくださいました。

他にも、花壇の手入れや一人一鉢運動などを行っていますが、このような活動を通して、ふるさとを愛する豊かな心が育つことと思います。



しめ縄づくり

須木中

地域の方々とのふれあいを目的とした、恒例の行事です。指導して下さったのは友愛クラブの皆さん。

開会行事での顔合わせ後、ワラ打ちを行い、作製に取り掛かりました。「縄をなう」工程に苦勞しましたが、丁寧なご指導のおかげで、着々としめ縄が出来上がっていきました。

「ふれあい」の中でできたしめ縄で、きっと、よいお正月を迎えられたことと思います。





令和3年度
3月号

KSSVCだより

回覧

Kobayashi School Support Volunteer Center

小林市教育委員会 社会教育課 KSSVC 事務局 (TEL22-7912)

日本のロックバンド、レミオロメンの曲「3月9日」は、メンバー共通の友人の結婚を祝うために作られたそうですが、テレビドラマで使われた影響で、近年では、卒業式の定番ソングにもなっているようです。

歌詞には、新たな門出を思わせる内容がちりばめられていて、間もなく卒業式を迎える小・中学校でも、この曲が流れる場面があるかもしれません。

小学6年生と中学3年生の皆さんは、これまでに、先生、家族、そして友人とともに多くのことを学んできました。

また、各学校で行われた地域学校協働活動でも、地域、企業、各種団体の方々から学ぶことが多かったのではないのでしょうか。

それらの学びを生かし、次のステージでも大きく成長されることを願い、新たな門出を心からお祝いいたします。



郷土の先人について学ぶ

三松小 4年生

野尻原用水路建設に尽力した郷土の先人、田丸貞重についての学習です。

この日は、社会教育課の井上さんをゲストティーチャーに迎え、「当時の人々が、どんな思いで、どのように用水路を作ったのか」という課題に取り組みました。

のこぎりや斧など、当時の道具に触れて、大きさや重さなどを実感した後は、工事に関わった方々の思いについて、グループ内で意見交換をしながら、考えを深めていきました。



当時の道具に触れた(左)後は、タブレットを使って意見交換(右)

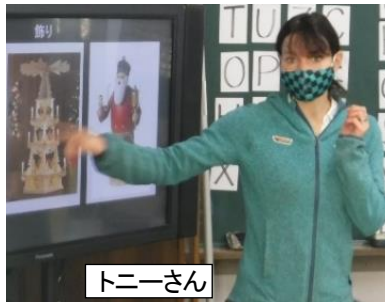
国際交流員との交流

西小林小 3・4年生

「ドイツについて知り、ドイツ語に慣れ親しむ」ことをねらいに、国際交流員でドイツ出身のアントニアさん(愛称トニー)との交流を行いました。

3年生はスライドで、4年生はクイズ形式で「ドイツのクリスマス」について紹介していただきましたが、クリスマス

への思いや習慣など、日本との違いについて、驚いたり、感心したりしながら、楽しく学ぶことができました。



トニーさん



グループでクリスマスクイズの答えを考える4年生

そば打ちに挑戦

永久津保育園・小学校・中学校

9月に、保育園年長組、小学6年生、中学1年生が協力して蒔いたそばの種が順調に成長し、楽しみにしていた「そば打ち」の日を迎えました。

そば打ち名人の倉菌さんに指導していただきながら、そば粉と水を混ぜてこねる、めん棒で伸ばす、麺状に切る、茹でるという手順で行いました。

JA女性部の皆さんが「そばつゆ」を作ってください、試食の時間は、多くの人の手と心が込められたそばの味を堪能しました



保育園児、小学生、中学生が協力して、そば打ちを楽しみました

性の多様性について考える

小林中 3年生

LGBTQについて理解し、性の多様性について考える目的で、講演会を開催しました。

講師は、串間直紘さんです。串間さんは、生まれた時に決められた性が女性で、現在男性として生活しておられるトランスジェンダーです。

「当事者として、当事者ではない方にメッセージとして伝えたい」という思いで話された言葉には説得力があり、生徒たちは真剣な表情で聞きながら、セクシャルマイノリティ(性的少数者)への理解を深めていたようでした。

LGBTQとは、レズビアン、ゲイ、バイセクシャル、トランスジェンダー、クエスチョニングの頭文字で、セクシャルマイノリティ(性的少数者)を表す言葉の一つです。



串間さんは、終始優しい口調で語りかけてくださいました

避難訓練 ～火災を想定して

須木 小

避難時の留意点や避難経路を確認し、火災が発生した時に安全に行動できるようになるための訓練です。

「理科室で火災発生！」の放送で迅速に体育館へ避難した後は、須木分遣所職員の方から、講評とともに最近の火災の状況のお話を聞きました。

その後の煙体験では、火災時の煙の怖さも実感することができました。

訓練全体を通して、火災から命を守るスキルが身についたことと思います。



真剣に訓練に取り組む子どもたち(左) 煙体験の様子(右)

花で地域にうるおいを

三松中 1年生

ホームセンターやまさき北側の歩道沿いにある花壇に、造園業の方々と一緒にパンジーやビオラなどを植えました。

学校と小林土木事務所とが道路の環境整備の協定を結び、平成22年から毎年行われている活動です。

花壇一面に咲き誇る花たちが、地域の方々のもとより、信号で止まった運転手さんの目を楽しませてくれています。

春過ぎまで見ごろが続きます。



シェフのこぼやし食育教室

東方小 6年生

地元の食材を使った料理を通して、生まれ育った小林市に愛着や誇りを持ってほしいとの願いが込められた、地方創生課の事業です。(対象は、市内の全小学6年生と一部の中学2年生)

子どもたちは、Kokoya de Kobayashi(ここやっど小林)の地井シェフから届けられたお弁当を食べながら、「小林市の豊かな食材」や「食の重要性」などについて考えることができたと思います。



今日のお弁当は、34種類の野菜を使っていますが、その内の8割が小林産です。水がきれいな小林では、おいしい野菜ができます。

地井シェフには、リモートでお話をいただきました。「食品ロスを減らす」「弁当箱を紙にする(脱プラスチック)」など、SDGsにも取り組んでおられるそうです。